

発表資料

2009年12月16日

特定非営利活動法人「定年GO」（理事長正木徹 東京都渋谷区）は今夏、「社会教育の推進と人間力の養成」「経済活動の活性化」「まちづくりおよび国際協力の推進」を活動方針とし、東京都の認可を得て設立されました。定年という人生の転機を迎える方々はもちろん、広い世代に向けて活動方針に沿った社会事業を展開いたします。

まずは社会人として、自律協働の精神を持つことを望む人々を集め、育てます。高齢者の知恵を若者に還流し、若者の英気を高齢者に降り注ぐような世代間交流が活発におこなわれる、活気あふれた社会づくりに貢献したいと考えています。

いままでは、定年イコール「ハッピーリタイアメント」の言葉で象徴される、定年後はのんびり、自分の好きなことに時間を費やせる。夫婦で長期の旅行、趣味の世界に浸り、子育てからも卒業、仕事からも卒業、これからの行動単位は夫婦で、地域社会活動への参加、ボランティア活動、定年を機に家の建て替え、趣味で絵を描こう、定年後は「安心、安定」がやっとやってくると思っていた方々が大半だと思います。

数名の先達に聞き取り調査を行ったところ、先達たちの悲鳴でもなく、雄たけびびもなく、仕事日が減って、所得は激減した先達の不満を呟く姿が見えてきました。

そこで、若年者から定年者までの声を集めるべく、2009年11月に緊急アンケートを実施しました。定年後も仕事をすると答えた方が72.1%もいました。また、定年後が心配と答えた方が41.1%もいます、50代以上に絞っての結果は73.0%にもなります。定年イコールリタイアメントや定年後は安心・安全と言う事は信頼されていなの結果が出ました。年金問題が影響しているのかもしれませんが。

定年がある方の44%の方は65歳までにリタイアメントをしたいと答えています、全体では、過半数の方はリタイアメント後が楽しみと答えています。

当NPOは、今後「会社人間から社会人へ」を標語にし、積極的に地域活動へ参加する場、世代間交流や地域間交流の場、同好会の支援、国際交流などのセミナーやイベント、パーティなどを開催して、会社人間（依存協調型）から、社会人（自律協働人間）へ、思考回路の交換支援を積極的に行っていく予定です。

今後、皆様のご支援下さいますよう、お願い申し上げます。